

鹿谷地区座談会 議事要旨

○と き:平成 22 年 8 月 6 日(金)19:00～21:00

○と こ ろ:鹿谷公民館

○テ ー マ:第5次勝山市総合計画

○出 席 者:41名

◎第5次勝山市総合計画について説明(未来創造課)

◎都市計画マスタープランについて説明(都市政策課)

Q1	<p>・市の説明によると、学校再編については決して平成32年までにすべてを決めてしまうというものではないと言っていたが、総合体育館については国体等の開催を見込むと南部中学校用地の活用を選んで平成27年春に建設スタートしないと時間的に無理だということであった。新体育館の建設については反対ではないが、新体育館で国体を開催するために小中学校を再編するようにも聞こえる。平成27年といえば後5年も無いが、そのあたりはどのように考えているのか。</p> <p>また、総合体育館の維持管理について、市はどのように考えているのか。かなりの大規模な体育館のように見受けられるが、国体開催のためだけではないと思うが、市民が毎週土日の活用ができるのか。平日はどのように維持管理するのか。50年も60年も体育館が建っていると、維持管理経費のほうが建設時のお金より膨らむ可能性がじゅうぶんに考えられる。</p> <p>併せて、市は勝山駅周辺整備を目指しているが、えちぜん鉄道と新体育館とのからみ、特に車の運転ができない方や高校生のえちぜん鉄道利用による新体育館利用ということも考えるのであれば、もう少し市の中心部に建設できないものかと思う。</p> <p>・小学校の再編について、鹿谷町では高齢者と子どもたちの交流が盛んだと聞いている。それが小学校再編によってその関係が薄れてしまうのではないか。鹿谷では秋の運動会と冬の雪まつりが高齢者と子どもが交流できる大きな行事である。しかし例えば小学校がいまの北部中学校のほうへいってしまうと、交通の便が悪いということで高齢者は二の足を踏んで行事に行きたくても行けないというようになってしまい、子どもと地域との関係が薄れてしまうのではないか。</p> <p>・コミュニティセンターについて、学校校舎は非常に大きな建物であり、今は児童が掃除などをしてきれいに管理されているが、これを地域に渡したときに建物の維持管理がどこまでできるのか。地域の方に維持管理のすべてをやってくださいというのはかなり無理がかかるのではないか。</p>
Q2	<p>・新体育館の建設について、中学校が統合されなかった場合には新体育館は建てないのか？または、南部中学校より別の場所で建てる考えもあるのか？</p> <p>また、建設場所はどうして南部中学校の場所でないといけけないのか？鹿谷ではダメなのか。アクセスを考えれば鹿谷は勝山インターがある勝山市の玄関口ということで一番適していると思う。</p>
A1・2	<p>・小学校の再編については目標年次を定めていない。それは、小学校は中学校に比べて地域に非常に密着している。地域の人たちの支援を受けながら学校運営をしている。ある意味地域の財産のような形になっている。また、それぞれの地域の特色がある。したがって、これから時間を掛けて、いろんなご意見をお聞きしながら、どういう形</p>

で再編が可能なのか、或いは地域の皆さんの総意として当面再編しないのか、さらにはいろんなバリエーションで再編することもあり得る、など、いろんな要素がある中で慎重に進めるべきであると考えている。

中学校の再編については、小学校より先行させていきたい。新体育館を建設したい。国体を誘致したい。と、このように話をしていると、国体を誘致したいがために体育館を建設して、そのために南部中学校にどいてくれと、中学校を先に統合するというような、まるで本末転倒のような受け取られ方をしてしまう。しかしながら、これはどの地区でもはっきりと申し上げているが、ここ20年間で中学校の生徒の数が半分になっている。こういった現状、これからの推移はさらに生徒数が減っていく。これで果たして良いのかということ非常に危機感を持って市民目線でいろんな角度から勝山市の小中学校はどうあるべきかを検討していただいた結果、小中学校の望ましいあり方検討委員会においてこのような学校が望ましいというひとつの結論が出され、そこに向けていろんな取組みを進めていこうというのがまず第1の課題である。しかもこれは行財政改革の視点ではなく、次代を担う勝山子どもたちが、より切磋琢磨してより幅広い可能性を見出せる教育環境づくりという観点からその課題について検討していくということである。

もう一方では、まったく別の話として、勝山市には体育施設はいくつかあるが、機能的に非常に不足しているのではないかと。競技スポーツ、生涯スポーツ、楽しみながらの健康づくりの拠点が不足している。特に勝山市は高齢化が進んでおり、健康づくり、体力づくりに熱心な市民がたくさんいる。しかし、そのような市民の需要に十分応え切れていないというのが現状である。さらに、いま夏休みを中心に学生合宿を誘致している。今年はこれまでに多く多くの学生が勝山に来ている。そのため、旅館、民宿等への宿泊など経済効果も非常に大きいものがある。しかしながら、これだけ多くの学生が宿泊はしてくださるが、勝山市内ではスポーツ等の練習の場が不足しているため、大野市のエキサイトや永平寺町で練習している。そのような中で何とかしてもう少し環境を充実したらどうかというのが、新しい体育館の建設ということで、これも勝山市の各界各層が集まった体育館のあり方検討委員会において協議した結果、先ほどお示したような機能を持った体育施設があるとよいといった中間報告をいただき、市はそれに基づいた素案を提示させていただいた。併せてそのような体育館を整備するならば、福井国体において勝山が誇るべきバドミントン競技を誘致したいということを考えている。

これら中学校の再編、新体育館建設、国体誘致という3つの課題を合理的に進めていく方法を検討した結果、お示ししている素案がでてきた。新体育館はまちの中心部に市が更地を購入して建設すればベストなのだが、市の財政面も現実問題として考えなければならない。それならば、中学校を統合することによって学校の敷地が空き、そこへ新しい体育館を建設することが最も合理的な方法であるというのが現時点での考え方である。体育館は、鹿谷、まちの中心部など、どこにでも建てることできる。しかし、そういった土地の確保などにかかる費用を考えれば、学校再編によって生み出されてくる土地を最大限に有効活用するならばこうであるという素案をお示している。

また、新体育館については結構大きな規模のものを提示させていただいているが、これは全国規模の大会を誘致して、勝山に元気、活気が出るよう考えており、そうなれば当然、経済的なメリットが出てくる。もちろん、えちぜん鉄道勝山駅からどのような形

	<p>で来館者を運ぶかなど市内外の人たちに精一杯利用していただけるように工夫していかねばならないと考えている。また、維持管理費は付いて回って来る。体育施設のあり方検討委員会の中間報告には財政面の検討という文言も入っている。そのあたりについてはしっかりと勉強しながらできるだけ負担のかからない形にしていかねばならないと考えている。</p>
A1	<p>・コミュニティセンターについては、小学校再編後、地域における遊休施設となる校舎や体育館を活用できないかと考えている。また、現時点では、これら施設の管理を地域が行うと考えているわけではない。地域が管理したいという考えがもしあるのであればそういう方向へ、当面は市が管理しながら徐々に地域へ管理を移管していくということも出てくるかもしれない。管理は誰がするのか、どういう運営方法をとるのかということを決めているわけではない。こういったことを含め、コミュニティセンターについて具体的に検討する際に、地域の皆さんの望む方向をしっかりと踏まえてお話をしていきたい。</p> <p>・また、現在の小学校校舎をすべて残すのか、または利用しやすい部分だけを残し、一部は取り壊すのかということを決めていくことだと思っている。</p> <p>また、小学校が再編されると、地域と子ども、地域と小学校の関係が薄れてしまうのではないかと、現在の地区運動会やエコミュージアムもタイアップしながら進めている「雪まつり」なども会場が遠くなってしまわないかということについて、このことについても地域で子どもの声が聞こえるようにするために、学校が終わった後の放課後児童対策は地域で行うということを考えている。コミュニティセンターは体育館もグラウンドも維持した形にする。そうした中で、地域での行事、運動会や雪まつりなどは鹿谷地区のこれまでの場所で開催していくものと考えている。</p>
A2	<p>・いまの素案のままでいけば、南部中学校の跡地に新体育館建設、平成27年には新中学校開校、平成29年に新体育館開設というシナリオとなる。しかしながら、南部中学校が新しい中学校に統合されなければ、南部中学校の場所には新体育館を建てようがない。</p> <p>また、新体育館の建設場所は南部中学校の場所以外には考えられないのかということについては、いま趣旨説明を申し上げたように、他にいろいろな面でより合理的に進められるようないい場所があれば、仮に中学校の統合は遅れても体育館の建設が先に進むことができるということになる。</p> <p>現時点では、市としてはお示している素案に匹敵するような良い考え方、場所などを見出してはいないわけだが、いろんなご意見をいただく中で、良いお考えがあれば当然じゅうぶん検討させていただきたいと思う。</p>
Q3	<p>・小中学校のあり方検討委員会の報告に基づいてこの素案を出し、3月に大々的に福井新聞に公表もされているが、検討委員会のメンバーの中に鹿谷の方がいるのであれば、検討委員会が出した意見と行政が出した素案とが一致しているかどうか、ぜひその人の意見を聞いてみたい。</p>
A3	<p>・私は、当時、検討委員会メンバーに鹿谷から出させていただいた。素案はある程度は検討委員会の意見の通りだが、私の記憶によれば、但し書きのところでも統廃合するには地域住民の了解を得るとか、小学校に関していえば、全校生徒が30人を切る場</p>

	<p>合には地区で検討委員会を立ち上げるというような表現になっていたと思う。こうした点は検討委員会の意見とは少し違っていると思う。</p> <p>また、検討委員会で協議する中で、市街地の比較的大きな地域の方々には統合するほうなのであまり関心が無い様子だったのに比べて、小規模な学校をもつ地域の方々には熱心に議論を重ねていたように感じる。また、そのときに取ったアンケートで、「将来的に統廃合は望ましいか」という問いに対しては、賛成の意見が多かったように思うが、統廃合の時期を問う設問に対しては「ただちに」ではなく、「児童数の減少が進んだ段階で」という意見が多かったように思う。</p>
Q4	<p>・小中学校の再編については、私は子どもたちの1クラス25人～30人学級が望ましいと思っており、いまの鹿谷小学校の教育体制が理想的だと思っている。地域にとって子どもは宝であって、自分たちの未来を象徴する要である。小学校が無くなると、子どもたちの明るい声が地域から消えてしまうような気がする。</p>
A3・4	<p>・あり方検討委員会については、各地区のPTA代表の方や市内の各界各層の代表の方に参画していただいていた。そのときの意見と若干違うというご指摘をいただいたが、いまここに画面でお示しているのは、あり方検討委員会がとりまとめた最終報告書の原文である。ただ、委員の中にも「速やかに」という意見もあったであろうし、もう少し時間をかけて将来的な課題として捉えている方もいたかもしれない。しかし、市としては、総合計画を策定するにあたっては、この小中学校の再編という課題について真正面から取り組んでいく必要があると考えている。そうしなければ委員方に3年間かけてしっかりと研究、協議していただき、これからの学校のあり方について一つの姿を出していただいたものを先延ばしにしてしまうということになる。やはり、道筋だけはしっかり付けていかなければいけないということで、ある意味前向きな形で素案として提示させていただいたということである。</p> <p>ただし、小学校については、地域と子ども、学校とは非常に密接な関係がある。小学校は地域にとって大切な存在であると他の地区座談会などのいろんな場面でもお聞きしている。したがって、そのようなことを十分踏まえて、これからどのような形にしていくのかということは地域の皆さんと協議していきたい。ただ、中学校については素案にもあったように出来るだけ早く再編を実現していきたいと思っているが、これについても、市民の皆さんの総意を最大限に尊重しながら進めていくというスタンスである。</p> <p>これからいろんな場面で、いろんな方のご意見をお聞きしていきたい。</p>
Q5	<p>・勝山市はスキー場があるから良いという意見があることに関して、確か中川知事の時に県のほうで国体が開けるスキー場をつくりたいという構想があったかと思う。その夢は結局実現しなかったのか？</p> <p>・福井国体で誘致する競技はバドミントンだけを考えているのか？前回の国体の時はバドミントン以外にソフトボールと山岳競技も行われたと思うが今回はどうか。そのようにほかの競技も考えているのか。それともある程度絞っているのか。</p> <p>・先ほど新体育館への勝山駅からのアクセスという話があったが、国体のための道路として中部縦貫自動車道も考えられる。中部縦貫自動車道のアクセス道路について、今後の計画はどうなっているのか？</p> <p>・学校再編における通学について、朝は早く家を出る子と遅く家を出る子とがあるので、各地区2度回るようにしなければいけないと思う。また帰りは、部活動などもあるので</p>

	<p>で3回ぐらいは各地区回らなければ充実しないと思う。そのうち、結局親が送り迎えしなければならなくなるのではないか。親が車で送り迎えしていることについては、果たしてこのような教育でいいのかという疑問もある。</p> <p>通学の足の確保についての方針をはっきり示してから再編の話を出していったら良いと思う。また、スクールバスについては、勝高生を含めた運行体制の検討など幅広い考え方でいったほうが良いと思う。</p> <p>・もし、小学校の再編よりも中学校の再編を先に進めるのであれば、新体育館をいまの北部中学校のところにもってくるということも考えられないことではないと思う。再編の時には、市民の理解をしっかりと得ながら進めてほしいと思う。個人的には中学校の再編は早くしたほうが良いと思う。いまの子どもの教育については、たくさんの子どもの中で学んだほうが良いと思うので、統合するにあたっての市民の不安を解消しながら話を進めてほしい。</p>
A5	<p>・国体が開けるスキー場の建設については、大きな開発整備が必要なことから、県において現時点では、そうした動きは無いと思われる。</p> <p>・福井国体で誘致する競技種目については、やはり勝山が誇るバドミントンが他の市町で開催されるということは非常にさみしいこと。したがって、まずバドミントンは優先的に誘致したいということで手を上げていくことを考えている。また、現在閉鎖されているクレー射撃場を再開してクレー射撃競技を誘致することも考えており、市長も先頭に立って県に働き掛けしている。ただ、射撃場再開には相当の県費が必要であることや、利用することによって鉛の処理についても莫大な経費がかかるという課題もあって県も頭を悩ませている様子。前回の国体ではソフトボール競技や山岳競技も開催しているが、現時点では、まずはバドミントンとクレー射撃の2つの競技について誘致に名乗りを上げていこうと考えている。そのような中で、県内の他市町の動向も見ながら、さらに他の競技も開催できるかどうか、相当な準備も必要なことから、その可能性も見極めつつ勝山市での開催競技を検討していきたい。</p> <p>・スクールバスの件について、確かに中学生の部活の後というのは、それぞれいろんな場合があると思う。学校の再編を進めるためにはいくつか条件があると思うが、その中の最大の条件が通学の足の確保であると考えている。したがって、部活の後まできちっとフォローできるようにいろいろな形でバスを運行していきたい。そしてより合理的にということでもアイデアをいただいたが、そういったことも念頭に置いて、バスのダイヤ、スクールバスを何台配置していくかという具体的なことについてはこれから検討していきたい。</p> <p>・体育館の場所について、北部中学校の場所というのも一つの考え方であろうと思う。</p>
A5	<p>・中部縦貫自動車道のアクセス道路として、現在、勝山インター線が一部供用されている。また、勝山インターから川向いの新保区画整理の道路までの間の橋、取り付け道路について、先般土木事務所にも要望したところ。</p> <p>本年度は橋の詳細設計、道路部分の詳細設計をする予定である。また、平成23～24年にかけて、下部工、橋台、取り付け工事等に予算付けができれば着手するといった形で進んでいる。</p> <p>中部縦貫自動車道の福井インター～勝山インターまでを28年の供用開始を目指</p>

	<p>すということなので、県も28年度までには勝山インター線を全線開通させたいという意向である。</p>
Q6	<p>・市民アンケートの結果について、前回のアンケートの数字と現時点の数字とを比べないと良くなったのか悪くなったのかわからない。現時点ではこの意見が多かったということを見せられてもその数字が何を意味しているのかわからない。</p> <p>また、学校はこうあるべきだとか言っているが、勝山市全体を活性化させるような話が聞こえてもこない。不安に思っている。</p> <p>素案の全体についてかなり費用がかかると思うが、この費用の問題も不安である。</p>
A6	<p>・第4次総合計画策定時の市民アンケートでは、例えば雪に限って言えば、生活環境上の問題の中で「雪が不便」と答えた人が41.3%でトップであった。今回は69.6%ということで、調査時期が冬でしかも雪も多かったこともあったがこのあたりは今後分析していく必要があると思う。除雪体制は当然10年前よりは良くなっている。雪が降った時は朝1回必ず出勤しているし、特に降雪が多いときには夕方も出勤している。さらに、まちなかの狭い道路についても小さな除雪車を活用したり、融雪なども徐々に増やしたりしている。しかし、どうしてこのようなアンケート結果になるのかを考えると、高い高齢化率、核家族化の進行、一人暮らし高齢者の増加、家族の中における高齢者人数の増加ということもあって、雪に対する不安や自分の家の前の雪の始末もじゅうぶんできない人が増えてきているというのが原因であると考えられる。勝山市の大きな課題なので、さらにきめ細かな対策、また地域ぐるみによりどのような対策ができるかということもじゅうぶんに研究していかなければならないと考えている。</p> <p>さらに、働く場の確保について、市も企業誘致を進めてきたところであるが、平成の初めころまでには、中には定着して200～300人単位で雇用吸収していただいている企業もある。しかしながらここへきて、不況の中、大型の企業の誘致はなかなかできにくいということから、もう少しミスマッチのない良い政策は何かということで検討し、単に企業誘致の助成金を上げるのではなく、「ものづくり」に取り組む既存企業に対して支援していく、或いは商店街については新たな出店を目指す意欲のある人に対して支援していく、農林業については後継者の育成などに努めていく。そのようなきめ細かなところから少しでも勝山で職場が求められるようにしていきたい。</p> <p>5年前の国勢調査の結果では、勝山から市外へ働きに出ている人は4,000人余りで、逆に勝山に働きに来ている人は約2,000人という集計が出ている。このギャップを少しでも埋めていけるような施策を考えているところである。今後さらに、若者に帰って来ていただいて定住していただくためのバックアップは必要であるし、さらに、勝山から福井方面に勤めに出る人のために道路整備をしっかりとっていく必要もあると考えている。</p>
A6	<p>・市民アンケートについて、10年前のアンケート調査と全く同じ設問、同じ選択の項目数でアンケート調査を実施すると、10年前と今現在とでどんな状況になっているかわかる。そのような利点があるので考えなかったわけではないが、やはり10年前と今とでは社会状況が変わってきており、選ぶ項目の書き方についても今となっては誰も選ばないであろうという項目が入っていたりということから、今回のアンケートは10年前のものとは切り離して、いま市として総合計画を策定するためにこういったことを聞きたいという形でアンケートを取らしていただき、総合計画の基礎資料とさせていただいてい</p>

る。10年前のものと似たような設問項目もあるのでアバウトにパーセントを比べることはできるが、その選択肢の数が違ったりしており、統計的に正確な比較まではできない。

・勝山の財政は、決して豊かではないが非常に堅実であるといえる。しかし、学校や体育館をまったく新しい用地の確保から始めてどんどんつくっていけば、学校1つ造るにしても数十億円になるので、当然、勝山の財政では難しくなると思う。そのような中で、いま提示させていただいているのは、学校についても基本的に今の場所、建物の活用できるものは活用しながら、多目的ホールなど上積みするものを大規模修繕などの形で造っていく。人口があまり増えない中で既存の公共施設を有効に活用していくということで計画している。新体育館についても、建物は新築するという考え方で、建物だけで約17億円という概算が出ている。ただし、これにしても、新しく土地を取得し、測量し、造成していけばまだまだお金がかかるし、さらにこの素案は学校のあるところに造ることなので、例えば市民のために必要な部分はしっかり作るが、国体や大きな大会を誘致したときにしか使わないという施設もある。例えば、練習会場や市民ボランティアの控室、プレス会議、監督者会議などの施設を建物の中に全部詰め込んでしまうと、国体が終わった時に市民の体育館としては必要ない部分が多くなってしまふ。そうならないように、国体の時だけ必要なものは学校の今ある体育館、校舎を活用するということで、建物の予算をなるべく抑えていくことを財政的には考えている。そういった中で、現在素案としてお示ししている範囲内であれば、なんとか市の財政の中でやっていけるイメージを持っている。

以上